

平成30年度環境測定分析統一精度管理東海・近畿・北陸支部ブロック会議 事業報告書

1 日 時：平成31年3月15日(金) 13:30～16:00

2 場 所：職員会館 かもがわ 大多目的室

京都市中京区土手町通夷川上る末丸町284

3 参加機関：17機関

4 参加人数：39名(講師等を含む全数)

5 開催機関：京都市衛生環境研究所

6 会議内容：以下のとおり

(1) 開会挨拶

京都市衛生環境研究所 環境部門担当課長 照岡 正樹

(2) 議事

ア 環境測定分析統一精度管理調査について

環境省 水・大気環境局総務課環境管理技術室 室長 酒井 雅彦 氏

イ 平成30年度環境測定分析統一精度管理調査結果について

(一財)日本環境衛生センター 環境事業第二部計測技術課 梶 史生 氏

ウ 環境測定分析における留意点及び精度管理について

環境省環境調査研修所 教官 藤森 英治 氏

名城大学薬学部 衛生化学研究室 教授 神野 透人 氏

国立研究開発法人国立環境研究所

資源循環・廃棄物研究センター 主任研究員 山本 貴士 氏

(3) 質疑応答

ア 模擬排水試料(金属等の分析)

なし

イ 模擬大気試料(VOCの分析)

なし

ウ 底質試料

Q 環境水中のPCBの疑似ピークの見分け方についても、パワーポイントでお示し頂いた底質試料での見分け方と同様と考えて良いのでしょうか。

A 環境水中のPCBもソースは過去の製剤と考えられるため、同様に考えて頂ければと思います。

エ その他、全般的

Q 説明会の開催が、次年度から翌年度開催とのことだが、定期人事異動があるため、分析した者が説明会を聞ける現在のスケジュールがありがたい。

A ここ2,3年前に現在のスケジュールに変更したが、評価するまでの期間がタイトであるとの評価であり、元に戻すことにした。

(4) 次期開催担当機関挨拶

名古屋市環境科学調査センター 大畠 史江 氏